



## 2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年10月30日

上場会社名 株式会社RYODEN 上場取引所 東  
 コード番号 8084 URL <https://www.ryoden.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 富澤 克行  
 問合せ先責任者 (役職名) 総務部長 (氏名) 岡村 幸三郎 (TEL) 03-5396-6111  
 四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 2023年12月4日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年3月期第2四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	129,843	2.2	4,236	△11.1	4,313	△8.5	2,900	△8.5
2023年3月期第2四半期	127,033	18.4	4,765	71.9	4,714	66.3	3,170	67.7

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 4,208百万円(△11.4%) 2023年3月期第2四半期 4,750百万円(66.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	132.76	132.17
2023年3月期第2四半期	145.45	144.61

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第2四半期	165,742	83,253	50.1	3,801.67
2023年3月期	151,049	79,898	52.8	3,652.29

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 83,117百万円 2023年3月期 79,766百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	33.00	—	41.00	74.00
2024年3月期	—	46.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	46.00	92.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

配当予想の修正につきましては、本日公表の「剰余金の配当及び期末配当予想の修正に関するお知らせ(増配)」をご覧ください。

## 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	263,000	1.0	7,300	△22.2	7,300	△19.6	5,000	△6.8	228.81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想につきましては、本日公表の「2024年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と決算値との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2024年3月期2Q	22,824,977株	2023年3月期	22,824,977株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	961,411株	2023年3月期	984,827株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2024年3月期2Q	21,851,782株	2023年3月期2Q	21,801,861株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現段階において合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は見通しと異なることがあります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法について)

当社は、2023年11月13日(月)に機関投資家及び証券アナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。その模様及び説明内容については、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(四半期連結損益計算書)	6
(四半期連結包括利益計算書)	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)	9
(セグメント情報等)	10
3. 補足情報	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、欧米の金融引き締めによる影響やウクライナ侵攻の長期化によって食料品や資源の高騰、中国で対中輸出規制や不良債権問題の顕在化によるゼロコロナ解除後の回復が遅れるなどの影響により、総じて弱含みに推移しました。

国内経済は、半導体や電動化関連投資、脱炭素やデジタル化投資などの設備投資計画に増加の兆しがみられ、消費財を中心とした物価高という下振れ要因はあったものの、賃金上昇による個人消費の回復、インバウンド需要の回復などにより堅調に推移しました。

当社グループの取引に関する業界は、産業機器市場で一部在庫調整の局面がみられ、また工事現場や生産現場における人手不足が顕在化したものの、省力化投資などの設備投資や自動車生産が回復基調で推移したことに加え、サプライチェーンも回復し、さらにはリバウンド需要に対する供給も堅調に推移しました。

このような状況下、当社グループは、来年度が最終年度となる中期経営計画で掲げた代理店・商社の枠を超えた事業創出会社として「成長事業のビジネスモデルの確立」「基幹中核事業の生産性向上」及び「事業推進基盤の強化」への取り組みを加速し、2023年4月には会社名を「菱電商事株式会社」から「株式会社RYODEN」に変更、新生RYODENとして新たな価値を創造すべく取り組んでまいりました。

その結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,298億43百万円(前年同期比2.2%増)、営業利益42億36百万円(前年同期比11.1%減)、経常利益43億13百万円(前年同期比8.5%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益29億00百万円(前年同期比8.5%減)となりました。

当第2四半期連結累計期間におけるセグメントの業績は次のとおりです。

(単位：百万円)

		前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減率 (%)
FAシステム	売上高	22,376	25,555	14.2
	営業利益	691	1,229	77.9
冷熱ビルシステム	売上高	12,370	14,256	15.2
	営業利益	362	644	77.8
X-Tech (クロステック)	売上高	2,759	2,568	△6.9
	営業損失(△)	△97	△238	—
エレクトロニクス	売上高	89,555	87,502	△2.3
	営業利益	4,024	2,788	△30.7

## ①FAシステム

半導体製造装置向けの販売は海外需要の落ち込みを受け低調に推移しましたが、サプライチェーンの回復、自動車関連のEV化に伴う新規設備投資需要の取り込み、自動化・省人化・製造業DXなど新分野の需要獲得にも注力したことで、堅調に推移しました。

その結果、FAシステムの売上高は255億55百万円、営業利益は12億29百万円となりました。

## ②冷熱ビルシステム

冷熱分野では、設備投資や民間消費の回復とともに暑熱対策ニーズの高まりによる商業施設向けの業務用エアコンや低温設備機器の販売が好調に推移しました。

ビルシステム分野では、建設市場における資材の高騰、人手不足による新規建設計画長期化の影響を受けましたが、昇降機や電源設備の販売及び既存設備の更新案件が順調に推移したことにより好調に推移しました。

その結果、冷熱ビルシステムの売上高は142億56百万円、営業利益は6億44百万円となりました。

## ③X-T e c h

ヘルスケア分野では、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う医療関連設備投資が減少したことにより、IT関連機器をパッケージ化して提供するサブスクリプションサービス「トータルパックIT」、大型検査装置・画像システム等の販売が低調に推移しました。

I C T分野では、ビデオマネジメントシステム「FlaRevo」やRFIDを活用した資産管理システム案件は低調に推移しましたが、IT関連機器の販売は堅調に推移しました。

スマートアグリ分野では、電気代の高騰、資材高騰の影響を受け低調に推移するなか、植物工場野菜の研究開発・生産・販売・ブランディングを提供するバリューチェーン機能を事業基盤とする体制は整いました。今後は次世代農業やフードテック市場へ参入する企業向けに独自のサービスを提供し、データドリブンで収益性の高いスマート農業の構築に取り組んでまいります。

以上の結果、X-T e c hの売上高は25億68百万円、営業損失は2億38百万円となりました。

## ④エレクトロニクス

国内では、車載市場は自動車メーカーの生産回復に伴い、インフォテインメント機器向けSoC (System-on-Chip) やメモリ、センサーIC等の販売が堅調に推移しました。産業機器市場ではパワーデバイス等の販売が堅調に推移しました。

海外子会社では、欧米地域の車載関連向け販売が低調に推移しましたが、中国地域の産業機器関連向けアナログ半導体、東南アジア地域の車載関連向けメモリ等の販売が堅調に推移しました。

その結果、エレクトロニクスの売上高は875億2百万円、営業利益は27億88百万円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債及び純資産の状況

資産の部は、受取手形、売掛金及び契約資産が7億63百万円減少しましたが、現金及び預金が85億30百万円、電子記録債権が43億37百万円、商品及び製品が50億38百万円増加したこと等により、資産合計は前連結会計年度末比146億92百万円増加し、1,657億42百万円となりました。

負債の部は、支払手形及び買掛金が8億77百万円減少しましたが、電子記録債務が101億5百万円、短期借入金が14億92百万円増加したこと等により、負債合計は前連結会計年度末比113億37百万円増加し、824億88百万円となりました。

純資産の部は、親会社株主に帰属する四半期純利益を29億円、配当金を8億95百万円計上、為替換算調整勘定が8億93百万円、その他有価証券評価差額金が3億50百万円増加したこと等により、純資産合計は前連結会計年度末比33億54百万円増加し、832億53百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末比2.7ポイント減少し、50.1%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当社グループは、経営成績の向上と財政状態の安定を図り、資金需要に応じた一定の手許流動性を維持しながら、健全かつ効率的な財務活動を行っております。

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末比89億21百万円増加し、200億12百万円の残高となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において営業活動により得られた資金は、78億63百万円（前年同期比115億62百万円収入増）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益43億84百万円の計上と、売上債権・棚卸資産、並びに仕入債務の増加によるネット資金の増加15億32百万円、未収入金の減少による資金の増加26億50百万円、法人税等の支払17億87百万円によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において投資活動により得られた資金は、2億24百万円（前年同期比15億56百万円収入増）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出1億38百万円、無形固定資産の取得による支出1億26百万円、投資有価証券の取得による支出1億25百万円、有価証券の償還による収入1億66百万円、3ヶ月を超える定期預金の払戻による収入4億40百万円によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において財務活動により得られた資金は、4億70百万円（前年同期比2億72百万円支出増）となりました。これは主に、配当金の支払8億91百万円、短期借入金の増加13億62百万円によるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、本日公表の「2024年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と決算値との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,632	20,163
受取手形、売掛金及び契約資産	58,516	57,753
電子記録債権	21,307	25,645
有価証券	168	8
商品及び製品	37,879	42,917
その他	6,851	4,254
貸倒引当金	△29	△30
流動資産合計	136,326	150,711
固定資産		
有形固定資産	5,438	5,406
無形固定資産	917	912
投資その他の資産		
その他	8,608	8,972
貸倒引当金	△248	△267
投資その他の資産合計	8,359	8,704
固定資産合計	14,715	15,023
繰延資産	7	6
資産合計	151,049	165,742
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	41,732	40,854
電子記録債務	15,704	25,810
短期借入金	1,633	3,125
未払法人税等	1,905	1,525
その他	4,575	5,553
流動負債合計	65,551	76,868
固定負債		
長期借入金	1,785	1,778
退職給付に係る負債	2,980	2,981
その他	834	860
固定負債合計	5,599	5,620
負債合計	71,150	82,488
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,334	10,334
資本剰余金	7,504	7,523
利益剰余金	59,391	61,397
自己株式	△742	△725
株主資本合計	76,488	78,529
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,940	2,290
為替換算調整勘定	2,023	2,917
退職給付に係る調整累計額	△685	△619
その他の包括利益累計額合計	3,278	4,588
新株予約権	129	135
非支配株主持分	2	-
純資産合計	79,898	83,253
負債純資産合計	151,049	165,742

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
売上高	127,033	129,843
売上原価	112,551	115,349
売上総利益	14,481	14,493
販売費及び一般管理費	9,716	10,257
営業利益	4,765	4,236
営業外収益		
受取利息	25	76
受取配当金	90	95
その他	77	106
営業外収益合計	193	278
営業外費用		
支払利息	14	49
持分法による投資損失	29	5
為替差損	134	116
その他	66	29
営業外費用合計	244	201
経常利益	4,714	4,313
特別利益		
投資有価証券売却益	38	-
補助金収入	1,500	70
特別利益合計	1,538	70
特別損失		
固定資産圧縮損	1,500	-
特別損失合計	1,500	-
税金等調整前四半期純利益	4,752	4,384
法人税等	1,600	1,486
四半期純利益	3,152	2,898
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△18	△2
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,170	2,900

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
四半期純利益	3,152	2,898
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△42	350
為替換算調整勘定	1,591	893
退職給付に係る調整額	49	66
その他の包括利益合計	1,598	1,310
四半期包括利益	4,750	4,208
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,769	4,211
非支配株主に係る四半期包括利益	△18	△2

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,752	4,384
減価償却費	242	318
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	0	4
受取利息及び受取配当金	△116	△171
支払利息	14	49
持分法による投資損益 (△は益)	29	5
売上債権の増減額 (△は増加)	△2,291	△2,324
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△2,536	△4,418
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,719	8,275
固定資産圧縮損	1,500	-
補助金収入	△1,500	△70
未収入金の増減額 (△は増加)	△1,013	2,650
その他	373	785
小計	△2,262	9,488
利息及び配当金の受取額	156	213
利息の支払額	△10	△51
法人税等の支払額	△1,583	△1,787
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,699	7,863
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,338	△138
無形固定資産の取得による支出	△102	△126
投資有価証券の取得による支出	△37	△125
投資有価証券の売却による収入	74	2
有価証券の償還による収入	-	166
定期預金の払戻による収入	-	440
補助金の受取額	1,500	70
その他	△427	△66
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,331	224
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	888	1,362
長期借入れによる収入	530	-
自己株式の純増減額 (△は増加)	△0	△1
配当金の支払額	△675	△891
財務活動によるキャッシュ・フロー	742	470
現金及び現金同等物に係る換算差額	532	363
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,755	8,921
現金及び現金同等物の期首残高	11,577	11,091
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	629	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,451	20,012

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間において、ストック・オプションの権利行使に伴う自己株式24,000株の処分により、自己株式が18百万円減少し、資本剰余金は自己株式処分差益18百万円を計上したことにより増加しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末における資本剰余金が75億23百万円、自己株式が7億25百万円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	FA システム	冷熱ビル システム	X-T e c h	エレクト ロニクス	計		
売上高							
外部顧客への売上高	22,376	12,370	2,759	89,527	127,033	—	127,033
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	28	28	△28	—
計	22,376	12,370	2,759	89,555	127,061	△28	127,033
セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は営業損失)	691	362	△97	4,024	4,980	△215	4,765

(注) セグメント利益又は損失の調整額△215百万円には、各報告セグメントに配賦されていない全社費用△215百万円が含まれております。全社費用は報告セグメントに帰属しない新規事業開発費用であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	FA システム	冷熱ビル システム	X-T e c h	エレクト ロニクス	計		
売上高							
外部顧客への売上高	25,555	14,256	2,568	87,463	129,843	—	129,843
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	39	39	△39	—
計	25,555	14,256	2,568	87,502	129,883	△39	129,843
セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は営業損失)	1,229	644	△238	2,788	4,424	△187	4,236

(注) セグメント利益又は損失の調整額△187百万円には、各報告セグメントに配賦されていない全社費用△188百万円が含まれております。全社費用は報告セグメントに帰属しない新規事業開発費用であります。

## 3. 補足情報

ご参考までに、前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間の地域別売上高は、以下のとおりです。

前第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

## 【地域別売上高】

(単位：百万円)

日本	海外					連結合計
	アジア		北米	欧州	海外計	
	中国	その他				
(80.7%) 102,549	(11.3%) 14,311	(4.9%) 6,261	(2.3%) 2,846	(0.8%) 1,063	(19.3%) 24,483	(100.0%) 127,033

- (注) 1. 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しています。  
2. 上段は連結売上高に占める地域別の構成比です。

当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

## 【地域別売上高】

(単位：百万円)

日本	海外					連結合計
	アジア		北米	欧州	海外計	
	中国	その他				
(80.7%) 104,825	(10.8%) 13,967	(5.7%) 7,376	(2.1%) 2,765	(0.7%) 908	(19.3%) 25,018	(100.0%) 129,843

- (注) 1. 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しています。  
2. 上段は連結売上高に占める地域別の構成比です。